

## 2021年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2022年 4月 30日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 文学部・教授

(氏名) 竹川 大介

2021年度に交付を受けた公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

|       |                                   |            |         |       |         |        |
|-------|-----------------------------------|------------|---------|-------|---------|--------|
| 研究課題名 | 「旦過市場」に関する、映像人類学的調査とドキュメンタリー記録の制作 |            |         |       |         |        |
|       | 合計                                | 使用内訳(単位:円) |         |       |         |        |
| 交付決定額 | 600,000                           | 備品費        | 消耗品費    | 報酬    | その他     | 旅費交通費  |
| 執行額   | 600,000                           | 170,280    | 233,047 | 0     | 129,910 | 66,763 |
| 執行残額  | 0                                 |            |         |       |         |        |
| 共同研究者 | 所属・職名                             | 氏名         |         | 役割分担等 |         |        |
|       |                                   |            |         |       |         |        |
|       |                                   |            |         |       |         |        |
|       |                                   |            |         |       |         |        |

研究分野：映像人類学

キーワード：映像人類学・市場・ドキュメンタリー制作・地域研究

### 研究成果の概要(和文)

「旦過市場の歴史」「旦過市場の店主」「旦過市場の利用者」「旦過市場の食材の流通」の4つの観点から年間を通じて市場の複数の店舗から取材をすすめ、映像の記録を収集した。調査でえられた資料や映像は、記録を分類し、アーカイブとして整理されている。しかし当初に計画していた撮影はすべて終わらず、編集作業も十分に進めることができなかった。引き続き映像の記録を集め編集を進めていく予定である。

また、3月15日から16日に、滋賀県で開催された生態人類学会の研究大会において「フィールドワーク教育におけるドキュメンタリー映画の活用-生業研究における映像記録の可能性と限界」と題して本研究に関連する取り組みについての発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

## 1. 研究の背景

研究代表者の研究分野である、文化人類学の領域では古くから映像を用いた社会調査がおこなわれており、地域文化や社会に関する映像作品が作られてきた。

北九州市の台所と呼ばれる旦過市場は、中世の港湾都市にさかのぼる長い歴史を持つ一方で、現在も市民に広く親しまれており、地域のにぎわい拠点のひとつとなっている。全国の中心市街地の町並みが変わっていく中で、こうした市場の存在は、北九州市の貴重な文化資源に位置づけられる。

2021年2月10日に旦過市場の整備事業計画に対する国の認可があり6年間をかけて市場の建て替えが行われることが決定した。2020年度から市場の記録を残すための社会調査を始めている。2021年度は、必要なコロナ対策を実施したうえで取材をおこなえる撮影体制が確立したため、懸案の個店への取材を再開し撮影をおこなった。

研究代表者は2000年前後に北九州市の市場を調査し、その成果を元に2008年より学生たちとともに旦過市場内で大學堂という店舗を運営している。こうした市場とのつながりを元に調査研究や撮影をすすめた。

## 2. 研究の目的

研究代表者は2020年の東京都青ヶ島における調査で、製塩と焼酎醸造に関する文化映像を記録し、それを編集した映像作品を公開している。本研究では、こうした映像人類学の手法を用いて、旦過市場を対象とし都市空間における市場の現状と人々の社会関係に関する映像記録を残すことを目的とする。

旦過市場は古くからの地元の常連客など根強い顧客を持っている。この顧客と店主との世代を越えたつながりは、中心市街地における独特な都心型共同体の役割を果たしている。さらに近年では定年退職後の高齢者の都心回帰がすすみ、東京や大阪からの新規移住も見られるようになった。これらの世帯は主に旦過市場周辺やモノレール沿線のマンションに居住し、買い物や散策の目的で旦過市場を訪れている。コロナの影響で一時的に観光客が減少しているものの利用者のグローバル化や多様化が進んでいる。

このように旦過市場には、多様な人のネットワークが形成され、「少子高齢化と人口減社会の進行」「アジアの成長と経済のグローバル化」のフロントラインの役割を担う、北九州地域における典型的な都市社会の特徴を見出すことができる貴重な研究対象である。

これら調査のデータを取材映像とともに研究資料としてアーカイブ化し、映像作品として編集する。本研究の成果によって、北九州市の歴史的特性に関する文化価値を外部に向けての発信することができると同時に、都心部の地域振興や市場の将来構想において有用な資料を提供する。変容をよぎなくされる都市型共同体の今の貴重な記録を残しておくことは、該当地域に深い関わりを築いてきた研究者のひとりとして、喫緊の社会的責務であると考えている。

### 3. 研究の方法

調査では、旦過市場の歴史と現在を、主として「歴史」「店主」「顧客」「食材の流通」の4つの視点から取材を進める。すでに「歴史」と「食材の流通」については2020年度から取材を始めており、コロナの状況を見ながら今年度は主に「店主」「顧客」へのインタビュー資料を集めた。市場内に調査拠点を設け、感染対策を十分におこなった上で、通年的に撮影を進めた。

### 4. 研究成果

先の研究目的で述べたように、制作する映像は、主として「旦過市場の歴史」「旦過市場の店主」「旦過市場の利用者」「旦過市場の食材の流通」の4つ点から記録されている。

「旦過市場の歴史」では、旦過市場の立地を明らかにするために、中世の港湾都市に詳しい歴史学者や在野の郷土史家を対象とし、鎌倉から江戸・戦前期、および戦後の市場のインタビューをおこなった。数十人を越える市場関係者の中から、できるだけ多様な分野の取材ができるように人選をおこない撮影を進めた。

こうした個人の歴史と、戦後の市場全体の歴史との関連性が取材の焦点となる。「旦過市場の利用者」では、古くから旦過市場を利用している近隣住民などの常連客、近年になって都心部のマンションに移住してきた新住民、国内外から旦過市場を訪れる観光客を対象に、市場の魅力や個人的な記憶などの聞き取り調査を行った。「旦過市場の食材の流通」では、前年度に引き続き旦過市場で取り扱われている食材ごとに、生産者から流通そして消費者の手に渡るまでの過程を記録した。

市場の食材は季節ごとに変化するので、現場の撮影は通年でおこない、編集作業は主に年度の後半に重点的におこなう。コロナの状況を見ながら5月から翌年2月にかけて定期的に市場内でのインタビューを進めた。年末から年始にかけては集中的に映像を撮り、映像制作会社ビジュアルフォークロアの門馬一平氏を招き撮影の指導を受けた。

予算はおおむね計画通り適切に執行できたが、備品の故障の修理に謝金の費用を充てたため、学生たちが分担する予定であった編集作業を十分に進めることができなかった。

調査でえられた資料や映像はアーカイブとして整理・分類されている。しかしコロナの状況が改善されず、学生たちが市場の調査に関わることに制限があったため、編集作業を十分に進めることができなかった。また予定された映像もすべて撮影することはできなかった。とくに生鮮食品街での撮影を優先したため、火災で消失した新旦過横丁のエリアの取材をあとまわしにしてしまったことが悔やまれる。現時点で調査成果の映像はハードディスクに保存され分類された状態で保存されている。編集作業は進められているが、映像作品を完成させるまでにいたっていない。今後、さらに取材を追加して来年度以降に制作おこなう予定である。

2021年度 特別研究推進費報告書  
(別紙) 研究概要書

「旦過市場」に関する、映像人類学的調査とドキュメンタリー記録の制作  
北九州市立大学文学部  
竹川大介

旦過市場のアーカイブ映像を記録するために主として「1) 旦過市場の歴史」「2) 旦過市場の店主」「3) 旦過市場の利用者」「4) 旦過市場の食材の流通」の4つの視点から取材をおこなった。

市場の食材は季節ごとに変化するので、現場の撮影は通年でおこない、編集作業は主に年度の後半に重点的におこなう。コロナの状況を見ながら5月から翌年2月にかけて定期的に市場内でのインタビューを進めた。

調査でえられた資料や映像はアーカイブとして整理・分類されている。しかし予定された映像撮影は完了していない。とくに生鮮食品街での撮影を優先したため、火災で消失した新旦過横丁のエリアの取材をあとまわしにしてしまったことが悔やまれる。

現時点で調査成果の映像はハードディスクに保存され分類された状態で保存されている。その一部のスクリーンショット写真を添付する。こうしたデータをもとに編集作業は進められているが、映像作品を完成させるまでにいたっていない。今後、さらに取材を追加して来年度以降に制作おこなう予定である。



また、3月15日から16日に、滋賀県で開催された生態人類学会の研究大会において北方シネマでの取り組みの成果も合わせて、「フィールドワーク教育におけるドキュメンタリー映画の活用-生業研究における映像記録の可能性と限界」と題して本課題に関連する研究発表を行った。

## 学びから実践へ

- 北方シネマ運営委員の卒業生・門馬一平が監督をした映像作品「につぼん百名山・英彦山」がNHK-BSで放映された
- さらに、旦過市場を題材にしたドキュメンタリー映画「タンガ！タンガ！」の制作に取り組んでいる。



さらに旦過市場のものではないが一昨年制作した短編映像のうち青ヶ島の取材分に関する作品は下記のオンラインサイトに公開されている。

「青ヶ島の青耐」

<https://vimeo.com/manage/videos/501983362>

「ひんぎゃの塩」

<https://vimeo.com/manage/videos/512094127>